

Noh Kyogen
KANZE KYUKOHKAI
10 January, 2021(sun)
Yarai Noh Stage

観世九臈会

かんぜきゅうこうかい



一月 定例会

令和3年1月10日(日)
於 矢来能楽堂

【第1部】12:30開演(12:00開場)
14:00終演予定

—客席入れ替え—

【第2部】15:00開演(14:30開場)
16:30終演予定

※新型コロナウイルス等の感染防止の観点より、当面の間、公益社団法人能楽協会の「能楽堂における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」、ならびに公益社団法人全国公立文化施設協会の「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿って公演を開催いたします。

新型コロナウイルスの感染状況や行政機関などによる指示、各種ガイドラインの変更・更新等に伴い、内容に変更がでる場合がございます。最新情報は矢来能楽堂ホームページや公式ツイッターなどでも随時お知らせいたしますので、ご来館時などには必ずご確認くださいませようお願いいたします。

主催：公益社団法人 観世九臈会



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

感染予防にご協力をお願いいたします。

◆ ご来場の際のお願い

- 体調不良の方は、当日でもご来場をお控え下さい。
- ご入場の際は必ずマスクをご着用ください。
- 入口にて手指のアルコール消毒と検温にご協力下さい。
- 37.5℃以上の発熱がある方は入場をお断りさせていただきます。(上記にご協力いただけない方には、ご入場をお断りいたします。)
- 上記にて入場不可となった方へは、ご事情を伺った上で、払い戻しをさせていただきます。チケットを半券ともにご保管の上、ご連絡下さい。

◆ 会場内でのお願いなど

- 喫茶室は閉室しております。場内でのお食事はご遠慮下さい。
- 場内のウォーターサーバーは、使用停止とさせていただきます。
- 水分補給のためのお飲み物は、ご持参ください。
- プランケットの貸出は当面いたしません。
- 換気のため、お席によっては空調が強く当たるところがございます。ご自身にて上掛け等をご持参ください。
- 出演者へのご面会、お差し入れは当面の間、ご遠慮ください。
- 矢来能楽堂のお手洗いは数が大変に限られております。なるべくご来場前にお済ませ頂き、ご利用の際は間隔をあけてお並びください。

◆ 上演にあたってなど

- 上演中も、マスクの着用をお願いいたします。
- 舞台上も出演者の感染予防対策を講じた形式での上演とさせていただきます。
- 公演の前後および休憩中には外気を入れ、会場内の換気をいたします。
- 場内換気のため、上演中もロビーとの扉は開けさせていただきます。
- 1部、2部の入替時に館内消毒作業をいたします。
- 1部、2部とも続けてご覧になる方も、一旦退館をお願いいたします。
- 万一、来館者ならびに出演者・スタッフに感染が疑われる者が後日、発生した際は、所轄の保健所へご来場者様情報を提出させていただきます場合がございます。

このほか、矢来能楽堂ホームページにて、「矢来能楽堂における感染予防措置」をご確認の上ご来場ください。
皆様の健康と安全を第一に考えております。
皆さまにはご不便をおかけすることもございますが、何卒ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

矢来能楽堂・公益社団法人 観世九臈会

全指定席(各部)

正面席 5,500円 / 脇正面・中正面席 4,400円

学生券(脇正面・中正面) 2,200円

※学生券は26歳未満(要学生証)・未就学児入場不可

お申込み・お問合せ：矢来能楽堂・観世九臈会

電話：03-3268-7311 FAX：03-5261-2980

メール：yarai@eos.ocn.ne.jp

http://yarai-nohgakudo.com/

ご注文・お問合せ
TEL 03-3268-7311 FAX 03-5261-2980
Eメール shoin@meikyujyusha.or.jp

能楽書林

柳沢新治著 『横からみた能・狂言』

長年、日本の能楽放送に携わった著者が著した、現場ならではの解説。うらばなしをはじめ、能の歴史やひとくち、能の歴史、能の舞台、能の目撃者など、バラエティに富んだ内容を一冊にまとめた大好読物。

四六判・二三頁
本体一〇〇円十税

お問い合わせ
TEL 03-3268-7311 FAX 03-5261-2980
Eメール shoin@meikyujyusha.or.jp

能楽書林

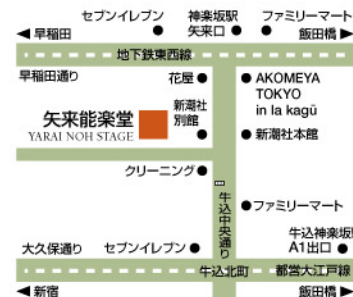
権藤芳一著 『能楽手帖』

簡潔な解説で携帯にも便利な能楽鑑賞事典。見聞し一冊で、上演頻度の高い一三〇曲を厳選して収録。曲ごとに、あらすじ・みどころ・作者・素材・各流の小書きなどが書かれ、観能の手引きに最適な書。巻末に用語解説も付す。

新書判・三〇二頁
本体一四〇〇円十税

【注意事項】

- 記載の演目・演者等はやむを得ない都合により変更になる場合がございます。
- 許可のない録音・撮影は一切禁止です。
- 携帯電話は電源からお切りください。
- 演能やほかのおお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場していただく場合がございます。



能・狂言
Noh Kyogen
観世九臈会
かんぜきゅうこうかい
矢来能楽堂

162-0805 東京都新宿区矢来町60

地下鉄東西線神楽坂駅下車 矢来口より徒歩2分 / 都営大江戸線牛込神楽坂駅A1出口より徒歩5分 / 駐車場はございません。近隣のコイン駐車場をご利用ください。

観世九皇会 一月定例会

令和三年一月十日(日) 於 矢来能楽堂

【第一部】午後十二時三十分開演(正午開場)

番組

翁 翁永島 充 三番三山本泰太郎 大鼓 柿原弘和
面箱 山本則孝 脇鼓 後藤嘉津幸
Okin 千歳 小島英明 頭取 幸 正昭 笛 竹市 学
脇鼓 船戸昭弘

後見 中森健之介 奥川恒成
観世喜之 地謡 永島忠修 駒瀬直也
観世喜正 観世喜正

狂言後見 山本則重
山本凜太郎

休憩十分

(午後一時四十分頃)
狂言 成上り シテ 山本東次郎 アド 山本凜太郎
Narigari アド 山本則俊 後見 若松 隆

【第二部】午後三時開演(午後二時三十分開場)

番組

老松 観世喜之 金子仁智翔
仕舞 二人静 河井美紀 桑田貴志
春日龍神 新井麻衣子 地謡 弘田裕一
中森健之介 石井寛人

休憩五分

子方 富坂 耀
後ツレ 観世喜正
前ツレ 佐久間二郎
シテ 遠藤和久

能 國 栖 大鼓 國川 純 太鼓 梶谷英樹
Kuzi ワキ 森 常好 小鼓 鶴澤洋太郎 笛 藤田貴寛
ワキツレ 館田善博
ワキツレ 梅村昌功 問 山本則重 山本則秀

後見 長山耕三 鈴木啓吾
遠藤喜久 地謡 中所宜夫
奥川恒治

(終演予定 午後二時頃)

(終演予定 午後四時三十分頃)

附祝言

翁

おきむ
本曲は天下泰平・五穀豊穰などを祈願する、様々な祝賀の文言が散りばめられ、古来より神聖視された曲であり、能の源流ともいえる。まず千歳が露払いとして躍動的な舞を舞う。それを受けて翁が御祈祷として翁舞を舞い、萬歳楽を唱える。そして三番三が五穀豊穰を願う「採之段」と「鈴之段」の舞を舞う。戯曲的な構成はなく一曲を通して儀式性が重視されており、節目にふさわしい安寧長寿を祝う演目である。

狂言 成上り

なりあが
主人と太郎冠者は鞍馬へ参詣し、おこもりをする。夜通しのお参りにまどろんだ冠者は、抱えている主人の太刀を竹にすり替えられ、すっぽに盗まれてしまう。目を覚まし、太刀を盗まれた事に気づいた冠者は、誤魔化すために様々な「成上り」の話をして主人にした後、太刀が竹に成り上ったと報告する。すると主人は：
能 國 栖
頃は春、時は壬申、大友皇子により都を追われた清見原天皇(大海人皇子、後の天武天皇・子方)は、臣下(ワキ)に守られながら大和国国栖まで逃げ延び、吉野川のほとりにある庵で休息していた。一方、吉野山に住む漁翁夫婦(前シテ・前ツレ)は川舟で戻ってくる途中、我が家の方に紫雲が覆っているのを見つけ、貴

人がおわすことを知る。夫婦が家に戻ると、下から貴人が清見原天皇である事を明かされ、さらに供御を頼まれる。夫婦は葦菜の羹と鱸魚にも勝る、旬の根芹と焼いた国栖魚(鮎)を奉る。御残りを賜った老人が、新羅討伐の際の占いのように、鮎を激流へ放つとたちまち蘇り、天皇が再び還幸なされる吉兆を現す。折しもその時追手(アイ)が迫る。しかし夫婦は干してあった川舟の中に天皇を隠し、言葉巧みに追手を追返す。その後夫婦は、御慰みのために舞楽を奏しましょうと言ひ残し、姿を消す。(中人)
やがて夜が更けると、天女(後ツレ)が現れ五節舞を舞い奏でる。程無くして、蔵王権現(後シテ)も来臨する。そして、東西南北天上天下余す所無く飛行して威徳を示すとともに、御代の復興を助けるのであった。